

D-FOOT INTERNATIONAL (インド)

次山さん (大学院 2年) 最優秀論文賞

インド・ムンバイで9月27～29日に開催された「第2回 D-FOOT INTERNATIONAL」で、本学大学院（リハビリテーション領域）2年生の次山航平さんが最優秀論文賞に輝きました。この国際学会は、糖尿病足病変に関する研究と臨床応用をテーマに掲げており、インドでの開催は2回目です。

次山さんは、理学療法士として臨床で得た着想をもとに、「糖尿病足病変に対する早期予防法の一つである治療用サンダルの効果」をテーマに発表しました。次山さんにとって初めての海外渡航は、学会での発表日程がなかなか確定せず、チケットの手配や入国ビザの取得に困難を来したり、ホテルの予約内容が知らないうちに変更されていたりするなど、トラブル続きでした。しかし、発表の場では最高のパフォーマンスを発揮することができ、見事に「Best Paper Award」を受賞しました。

この成果は次山さん本人の努力の結果であると同時に、急速に経済発展を遂げる南

アジア地域において、糖尿病足病変が深刻化している状況もあるのではないのでしょうか。近年では、手術や薬物療法に加え、装具療法の有効性をバイオメカニクス的手法で検証することが注目されているとのことです。

次山さんは、「学会に参加させていただいたことに加え、このような賞をいただいたことは非常に光栄です。この成果に満足せず、糖尿病足病変に関する研究をさらに継続していきたい」と意欲を見せていました。次山さんは今回の発表内容をさらに発展させて修士論文に取り組む予定です。

次山さんの研究テーマに関しては、理学療法学専攻の本田啓太講師、嶋村剛史助教、宮崎宣丞助教も指導、支援してきました。今後も本学大学院生が国内外で活躍できるような教育環境を整えていきたいと考えています。

（健康・スポーツ教育研究センター 松原誠仁）

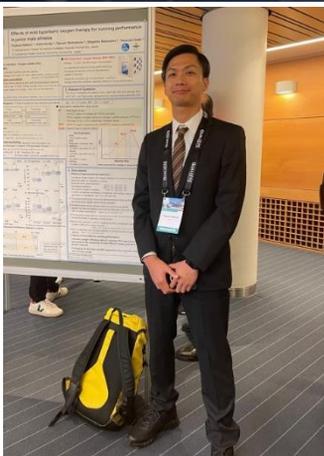
ESMAC年次総会（ノルウェー）

大学院OB中野さん 堂々の発表

欧州成人および小児運動分析学会（European Society for Movement Analysis in Adults and Children：ESMAC）の年次総会が9月12～14日、ノルウェー・オスロで開催され、今春本学大学院（リハビリテーション領域）を卒業した中野翼さん（学生会病院理学療法士）が、「軽度高気圧酸素環境下での滞在が運動中の酸素摂取量に及ぼす影響」というテーマで発表しました。ESMACは、バイオメカニクス（生体力学）の研究と臨床応用をテーマに、多くの医師、理学療法士、エンジニアが集うヨーロッパ有数の学会です。

今回の演題は、中野さんが修士論文で取り組んだテーマでもあります。初めて臨んだ海外での学会に緊張の面持ちでしたが、場に馴染むにしたがって海外の研究者や臨床家とのディスカッションを楽しんでいるように見えました。セッションの最後には、本学以外で唯一の日本人参加者であった広島大学の田城翼先生と意見交換を行い、議論を深めることができました。

ESMACの開会式は、毎年ノーベル平和賞授賞式が行われるオスロ市庁舎で開催されました。フィヨルドを望む美しい港エリアで多くの出会いがあり、知識とアイデアを共有できる貴重な機会となりました。中野さんも「この経験を日々の臨床活動に反映させ、再びこのような場に戻って来られるよう、今後も研究活動に力を入れていきたい」と語っていました。（健康・スポーツ教育研究センター 松原誠仁）

国際学会
飛躍の糧
に

写真上は、インドであったD-FOOT INTERNATIONALで発表する次山さん。同下は、初めての海外での学会発表を経験した中野さん

ヒヤリハット体験 … 「多分だろうの罫」に注意を

寄稿

木下 統晴理事長

ヒヤリハット…。帽子ではありません。ヒヤリとしたこと、ハットとしたことです。大きな事故を防止（ボウシ）するために、ヒヤリハット事例を報告してもらうシステムが、何十年も前から医療現場、介護現場、企業でも取り入れられています。

最近、私が経験したヒヤリハット（事故？）を皆さんに紹介します。

10月22日（火）の夕方は、雨でした。私は18時40分のJRに乗ろうと、1号館のライトコートを突っ切って西里駅へと急いでいました。ライトコートのドアを開けて、ポケットラウンジ2に入ったところで、見事に左足が滑り、転倒してしまいました。少しは痛かったですが、骨折や捻挫などはありませんでした。

では、なぜ転んだのでしょうか。

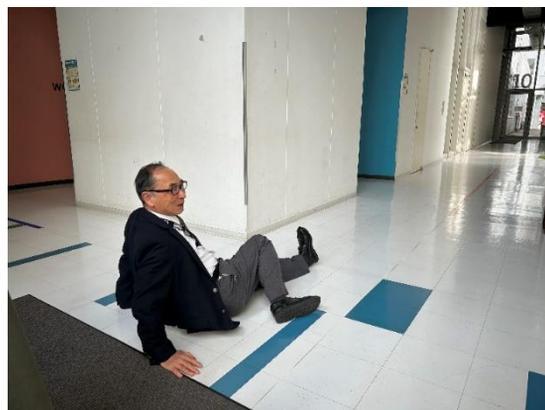
その日履いた靴は軽いのですが、滑りやすいものでした。普段、雨の日は滑りにくい靴を選ぶのですが、その日は、「まあ大丈夫だろう」と軽い方の靴を履いたのでした。これは私が基調講義（アカデミックスキルⅡ）で強調する「多分、大丈夫」、「大丈夫だろう」の罫にかかったのです。電車の時間ギリギリで急いでいたこと、運動しているので年の割には歩くのは速いという過信もありました。滑った場所のちょっと手前にはマットが敷いてありましたので、敷居やガラスのドアに頭をぶつけることがなかったのは、不幸中の幸いでした。（写真①）

翌日、総務課の米増さん、沖村さんにヒヤリハット報告を提出し、現場を見てもらい注意喚起の表示位置を変えてもらいました。（写真②）

滑らない靴、時間の余裕を持つこと、「多分だろうの罫」にかからないこと、運動の継続も大事だと思いました。このことは、10月28日の衛生委員会で報告し、ヒヤリハットも含め、安全衛生システムの大事さを伝えました。

学生の皆さんは、社会人として医療現場、企業、家庭などの場で活躍します。リスクを回避、最小化する教育は重要です。安全衛生、防災活動の知識、実践的な活動を大学で学ぶ安全衛生教育は大学の責務の一つだと考えます。

教職員、学生の皆さんには、「安全第一」の意味を、今一度立ち止まって考えていただきたいと思っています。



＜写真①＞ 雨の日に転倒した際の状況を再現する筆者



＜写真②＞ 表示位置を変更してもらった注意喚起のプレート

私の秘話
★
ヒストリー



佐藤 公美助教

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻

聖火ランナー

2021年4月25日は生涯忘れられない日。東京2020オリンピックの聖火ランナーを務めた日です。

東京開催が決まり、聖火ランナー募集を見て、ミーハーな私は宮崎県で応募しました。応募には地域との縁や自己PRなどを書かなければならず、大学生の時に立ち上げた「延岡アスリートタウンサポーターズ」のボランティア活動について書きましたが、「他の人よりPR内容が薄いだらうなあ」と半ば諦めていた頃、《聖火ランナー選出のお知らせ》が届いたのです。当時の驚き様はことばでは表せません。

しかし、喜んだのも束の間、コロナで開催の危機、選ばれたのに走れないかも…と不安な日々。1年越しの開催に賛否ありましたが、4月25日、ようやく地元で聖火ランナーを務めることができました。走った距離は200m、長くもあり短くもあり、夢のような時間でした。沿道の人の笑顔、家族・親戚・友人が喜んでくれた姿は忘れられません。トーチは一生の宝物です。

感謝の会終了後、記念撮影するピア・サポーターの4年生と関係者



4年生メンバーに感謝状

「ピア・サポーター 4年生感謝の会」を10月31日（木）、キャンパステラスで開催しました。4年生17人に感謝状と記念品が贈呈され、学生相談・修学サポートセンターの檜原真二センター長が「相談会やオープンキャンパス等での皆さんの活動に助けられた学生は多くいます。国家試験がんばってください」とねぎらいました。

4年生たちは、後輩からのメッセージが掲載された「会のしおり」を見ながら、「活動を通して学ぶことがとても多かつ

た」「伝えることの難しさを感じながらも、知見を深めることができた」と、口々に話していました。

最後に、竹屋元裕学長が「皆さんの存在を知った高校生が、入学後にピア・サポーター学生となっている例もあるようです。活動の継承をうれしく思います。講義や実習では得られない経験をされたと思います。次は国家試験、卒業を目指してがんばってください」と激励しました。

(学生相談・修学サポートセンター)

ピア・サポ通信

大学院推薦選抜など実施

リハビリテーション学科の特別選抜（社会人）、大学院推薦選抜・社会人選抜I期、助産別科推薦入試が2日（土）、実施されました。今年も多数の受験者が筆記試験・面接試験に臨みました。早朝より激しい雨に見舞われましたが、試験は滞りなく終了しました。合格者は、特別選抜が12月2日（月）、大学院推薦選抜・社会人選抜I期が11月15日（金）、助産別科推薦入試が11月12日（火）に発表されます。

(入試・広報課)

銀杏アラカルト

■佐賀東高校の保護者ら来学 佐賀県立佐賀東高校のPTA役員と職員一行が10月24日（木）、本学を来訪しました。入試・広報課職員による本学の概要説明後、一行は各学科の実習室や図書館エリア、就職・実習支援課、レストラン等を見学。講義・演習のほか、学科混成で行われる「チーム医療演習」の様子など、学生の学びに直接ふれてもらいました。見学中には「施設がきれいで充実していますね」といった声も聞かれました。今回の訪問が生徒たちの進路選択の一助となれば幸いです。(入試・広報課)



キャンパス内施設を見学する佐賀東高校の一行

怒りのメカニズム、良い睡眠の方法など解説

熊本産業保健研究所の保健師で熊本産業保健総合支援センター産業保健相談員の堀口真愛さんが10月25日（金）、オンラインで「アンガーマネジメント活用術～睡眠ガイド2023のポイント～」と題して講演しました。

保健師・堀口さん講演

本学の卒業生でもある堀口さんは、私たちが怒らせるものの正体は理想と現実のギャップにあり、「こうあるべき」という気持ちで裏切られたときに怒ると説明しました。そのためにも怒りが生まれるメカニズムを知り、衝動と思考、行動をコントロールすることが大切だと話しました。

堀口さんは、2023年度に改定された睡眠ガイドについても言及。「良い睡眠は健康のもととなる。寿命延伸のために睡眠時間（量）と睡眠休養感（質）を上げていくことが大事」と、話しました。また適度な運動習慣を身に付け、就寝前の食事、飲酒、喫煙、カフェイン、スマホを控えることで、よい睡眠をとることができることも話しました。(入試・広報課)

週間行事予定（11月11日～11月18日）

11/16（土）

学校推薦型選抜（指定校・公募）